

紙漉きと行燈づくり体験

生活創造応援隊研修会

9月11日(月)生活創造応援隊員とOB、事務局職員の計9名は、佐用郡佐用町上石井に、三椏和紙の紙漉きと行燈づくりの体験をするため行きました。石井地域づくり協議会では、地域活性化のため、三椏を使った和紙づくりに取り組んでおられます。

始めに元会長の岡本さんから、和紙が出来るまでの工程と紙漉き手順の説明を受け、三椏の刈り入れに始まり佐用の厳しい寒さの中の丁寧な作業を聞き、その



完成した行燈を灯して

苦労と和紙の大切さを改めて知りました。初めての紙漉き体験では、紙の厚みを一定にするのは難しく、会員さんの指導と応援を受けて一喜一憂ドキドキでした。

午後は、行燈づくり。丁寧な指導を受けて骨組みはできて、次は自分が漉いた和紙に絵手紙用の絵の具で絵を描くのですが、これも初めての事でさあ大変！皆の顔は真剣そのもの！季節の絵柄、モダンな絵、得意な字、好きな



石井地域づくり協議会のメンバーと



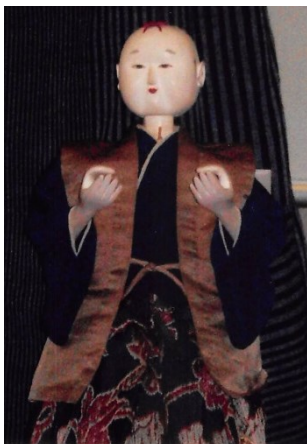
紙漉きに挑戦

花、果物など色々な絵が生まれました。最後は骨組みに糊付けして完成しました！ライトを灯すと歓声上がり皆大喜び、苦労が吹っ飛んだ思いでした。自分で漉いた和紙に絵を手描きした行燈を灯すと、きっと素敵な秋の夜長になるとワクワクしながら帰路につきました。

【取材・文責：長尾智子】

自作からくり人形で慰問

江戸からくり人形に取り組む上郡町高田台の塩田憲次さんは、手先が器用で「動くおもちゃを作りたい」との思いで、会社勤めを定年退職後ネットで公開されている設計図をもとに茶運び人形・段降り人形を制作されたそうです。又、弓曳き童子は設計図が公開されておらず写真等を観察し制作、何度も試作を繰り返して



茶運び人形

約3年半かけて完成させたそうです。9月には赤穂市坂越地区の敬老会を慰問。茶運び人形を始め段降り人形と次々に披露、塩田さんはその都度高齢者の方達に作り方や、材料は骨董市で買った古い柱時計の歯車を利用して、そして人形達のからくりの仕掛けを丁寧に話されていました。衣装は奥さんが作ってくれます。と話されると「へえ・・・仲がええんやなあ・・・」誰かのひと言に会場は大笑い、そして最後に弓曳き童子の登場です。「100



弓曳き童子



塩田さん

発放っても1発も当たらん時もある」と塩田さんの前触れにもかかわらず一矢ごとに会場は大きな歓声が聞こえます。あっと言う間の1時間でしたが、高齢者の方達は童顔にかえり瞳は生き生きとしていました。塩田さんの気さくな人柄が、からくり人形と共に高齢者の方達の心を和やかにしてくれました。会場を去る塩田さんを見送る人達の笑顔がとても印象的でした。

【取材・文責：神戸八重子】